東京梅檀会 執行部役員・学年幹事会議事録（平成２４年３月８日作成）

開催日時：平成２４年３月４日（日）１３：００～１６：３０

場　　所：品川区荏原三地域センター（仮）第２会議室

出 席 者：三浦俊一（高 5)、渡部尚武（高 6)、松倉収（高 7)、木幡精一（高 8)、佐藤和征・持田憲治・松本仁（高 10)、鈴木秀夫・佐藤宏秀・鈴木昌子・松本孝之・平岡幸夫（高 12)、深沢静子・井上博明（高 13)、横田春子・谷本多美子・市川宏（高 14)、宇佐美行夫・中澤嘉樹（高 18)、辻ノリ子・久保田則男・佐藤武光（高 19)、渡部信綱（高 20)、鈴木孝光（高 21)、村山俊朗（高 22)、小倉志保子（高 24)、加藤淳子・矢島幸子（高 26)、八神由佳里（高 31)、深澤東史子（高 33)

☆出席の新学年幹事：坂本豊（高 22）　　書記：鈴木孝光（高 21）　　合計３１名

：大井幹事長病気欠席のため鈴木孝光副幹事長が議事進行を代行

会長挨拶：鈴木秀夫会長　　（挨拶の前に作山本部副会長の逝去を悼み黙祷）

新年総会お疲れ様でした。避難されている方の参加もあり例年になく大勢の参加者で盛況でした。　双高は今まで４か所に分散していたが、２４年度からいわき明星大学に校舎を移す予定です。東京梅檀会として今後どのような支援をしていけば良いか検討していきたい。

出席者自己紹介：新副会長・２２回学年幹事の紹介と参加者一人一人が自己紹介

議題　１．新年総会を振り返って　２．学年幹事の定着に向けて　３．総会・懇親会４月開催について
　　４．合同会議年間予定　　５．名簿管理委員会について　６．緊急時の対応について

１．２４年新年総会を振り返って

・前日の悪天候や当日の鉄道事故等で欠席者が多かったが、避難した同窓生を含め総数２０５名の参加者数があった。受付から懇親会終了まで時間通り順調に終了し好評であった。

・準備段階で各役員・担当の役割分担や責任体制を明確にし、次年度に向けたマニュアル化が必要である。式次第や懇親会・アトラクションの内容も従来通りでよいか検討する。

・周年学年や最多参加学年賞の景品や金一封について、何か思い出に残る適当なものはないか。
周年学年の案内は、１１月下旬までに担当役員、幹事幹、学年幹事名で発送する。

・総会に参加できる仕組み作りが必要である。映画試写会やイベントで新卒者の歓迎会を企画する。

・佐藤編集長より同窓会新聞８号の記事依頼があり、役員・学年幹事は率先して情報の提供を行う。

・東京梅檀会の年会費納入状況により、新聞の発送制限があっても良いのではないか。

・中澤会計幹事より新年総会の会計報告があった。卒業生９４名の同窓会終身会費を双高募金より拠出した。今後の募金の使い道は、学校関係者と相談の上決めていく。

２．学年幹事の定着に向けて

・来年の総会懇親会は、２２回生が運営担当となる。

・東京梅檀会の名簿にもとづき、葉書・電話・メール等で呼びかけ、１０名以上の参加者を確保する。

３．総会・懇親会４月開催について

・５月開催で交渉したが、会場の都合で平成２５年４月２７日(土)東海大学校友会館と決定した。

・総会・懇親会の参加は誰でも参加出来る事とし、案内や会費をどうするか今後決める。

４．合同会議年間予定

・平成２４年度東京梅檀会会議予定日を承認したが、日程や場所は柔軟に対応する。

・次回は７月７日（土）予定となる。

５．名簿管理委員会について

・東京梅檀会の名簿管理委員会を立ち上げる。委員長を鈴木孝光副幹事長とし、委員や管理方法は別途検討する。

・関東圏に避難している同窓生を梅檀会の会員にするかは本部の意向により決める。

６．緊急時の対応について

・緊急時の対応は、三役（会長・副会長・幹事長）が協議し実施する。必要であれば役員等にはメール等で配信し連絡する。

７．その他

・佐藤監督(高１９回)が制作したドキュメンタリー映画**『立入禁止区域・双葉～されど我が故郷～』**の無料上映会（２月２８日）に、東京梅檀会として花束を贈呈した。

◎会議終了後、いつもの会費制懇親会となりました。加藤淳子副会長の司会の下、最年長出席者の三浦俊一さんの乾杯の発声で始まりました。しばしの歓談のち、佐藤和征副会長の閉会の辞により終了。会務の苦労もあるが、懇親会もまた同窓会の楽しみです。１６時３０分終了。

以　上